

木もれ目 通信

Komorebi Tsushin

第53号

平成27年4月
つきだて花工房発
季刊誌

◎つきだて花工房は木もれ目のようなぬくもりとやさしさを持ち続けるみなさまの公共施設を目指します。

育てる人の愛情はやがて花となって
育てた人だけではなく
それを眺める多くの人をも幸福にしてくれる

このへんでは「クレマチス」と言う
と「なんだい、それ？」と言われるこ
とが多いのではないか。特にある程度
ご年配の方とお話しすると、かなり
の確率でそのような反応が返って
くる。そういう時は「テッセン」と言い換
えると「ああ、テッセンない」とようや
く話を通じる。

クレマチスは性質によっていくつ
かのタイプに分けられる。そしてそれぞ
れに多くの品種がある。また、育て方
によって三つのタイプに分類できる。
花姿、色、花付と、様々な楽しみ方が
できる。

野生種もあり、このへんでは春に
ひっそりと咲くトリガタハンショウヅ
ル、秋にほのかな、小さい花をたくさ
んつけるセンニンソウ、つる性ではな
いクサボタンなどが見られる。

*

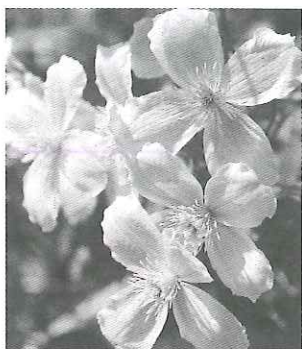
山腹を這うように、普通自動車が
なんとかすれ違えるかどうかという
幅の道を上っていく。初めて通る人が
不安に駆られるころ、数軒の民家が見
えてくる。その中に花卉農家の高
野憲一さんのお宅がある。花時には
見事なクレマチスが庭に咲き誇って
いるからすぐそれとわかる。

憲一さんが育てているのは主に
「ルーベンス」という品種。見事な花
つきに加えて、香りも素晴らしい。パ
ニラの香り。暖かな陽射しの中でこの
花の香りに包まれると時を忘れてし
まう。

ルーベンスはモンタナ系という、長
いつるを伸ばして支柱に絡みつくタ
イプ。このタイプは日本の夏にはやや

弱い。株全体を覆うほどの花付きの
良さの一方、突然立ち枯れしてしま
うこともある。憲一さんは株を絶や
さないために挿し木や取り木で繁殖
させている。庭には地植えされたク
レマチスのほかに、そうして増やさ
れ、育成中の鉢がたくさん置かれて
いる。そんな株のいくつかが花工房に
も植えられている。

話は少し逸れてしまいが、憲一さ
んはバラやチューリップの自家交配
にも挑戦している。ひところは庭を
埋め尽くすほどのチューリップが植
えられていたこともある。「チュー
リップは品種毎に掘り上げて大変な
んだよね。品種毎に掘り上げてもな
ぜか(他の品種と)混ざっちゃうしね」
作出した品種で気に入ったものには
名前も付ける。「どんな花が咲くか
からないのも愉しみ」まさに「筋金入
り」の園芸家といえるのではないか。
そうそうお邪魔するわけにはいか
ないが、新緑が芽吹き始めると、あの
クレマチス「ルーベンス」に会いに行
きたくなる。日々その色を変えてゆ
く新緑を眺めながら、あのおせかえ
りそうな濃厚な香りに包まれて恍惚
の時を過ごしたい、という衝動に駆ら
れる。そんな季節が目の前に。



なんとも愛らしいクレマチス「ルーベンス」

お客様ノオト

このノートはたくさんのお客様の笑顔と思い出が詰まった
つきだて花工房の宝石箱です



◆「小島四五会」様

10年来、毎年1月2日にご利用いただいている同級会「小島四五会」様です。
懐かしいお話で盛り上がった後はカラオケでひと時を楽しんでいました。幹事の高橋様には引き続き「小島櫓会様」でお世話になりました。



◆馬場一祐様叙勲祝賀会

馬場一祐様は月館町議員を始めとして数々の功績が認められ、平成26年秋、地方自治功労「旭日双光章(きよくじつそうこうしょう)」を叙勲されました。多くのご招待客、ご家族に囲まれ盛大に祝賀会が開催されました。



◆「花とおじさん」様

飯館村より県内各地に避難された伊丹沢地区の皆さまです。いつも再会を楽しんでいらっしゃいます。高橋様からはご自宅で作ったゼラニウムをいただきました。大事に育てますね。ご苦労が絶えないこととは思いますが、応援しております。



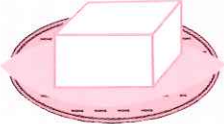
◆「みちのく吟道会」様

伊達市、福島市からお集まりの皆さんです。元学校教諭菅原様が中心となり、総会後に花工房の景色を眺めたり、季節を感じたりしながら熱心に、時間を忘れるくらい吟じていらっしゃいました。菅原様の教え子は地元月館町にも少なくないそうです。



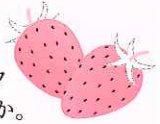
◆立子山小3・4年生豆腐作り体験

大豆から作る初めての豆腐作り。地元月館で以前豆腐屋さんを営んでいた斎藤さんに教えていただきました。後日、参加した子供達からお礼の手紙を頂き、嬉しく読ませていただきました。
立子山は凍み豆腐の名産地。いつかの中から凍み豆腐を作る人が出てくるかもしれませんね。



◆だてなイチゴ狩りツアーの一貫張り体験

伊達市を応援しようと、県外から参加された31名のツアーの皆さんが一貫張りを体験されました。通常2日かけて仕上げる体験ですが、先生の渡辺さんの下準備のおかげもあり、夢中になって半日で素敵なかごに仕上げました。
体験の後は花工房に宿泊、翌日は霊山町でイチゴ狩りと草クラフトの体験をされたとか。伊達市の魅力、満喫されたでしょうか。



絵手紙教室 絵との会話、楽しんでみませんか？ 夢中になれるひととき。
講師:和田恵秀さん(切り絵作家) 参加費:1,000円
開催日:5/11、6/8、7/6(全て月曜日) 開催時間:10:00~12:00



まだ土も凍る日が続くとはいえず、立春を過ぎると「今年はどうな野菜を作るのか」と種苗会社などのカタログやホームページを覗くのが楽しみになります。インターネットでは、普通の店舗ではあまり扱っていないような外国の野菜の種を、また、町に僅かながら残っている種苗店ではその地方や近郊で作られ続けている種も手に入れることができます。そんな、スーパーではなかなか手に入れることのできない野菜を育てることができるのは、たとえ小さな家庭菜園でも、畑を作る醍醐味と言えます。

例えば、カブの種。直径1mmにも満たない小さな種は丸く茶色。手元が狂つて土の上にごぼしてしまえば、微細な土のすきまに入り込んでその行方もわからなくなり。その小さな種が適度な水分と温度を得る

と、外殻が割れて白っぽい芽がのぞきます。それはすぐに小さな双葉となつて揺がり、葉を増やし、根を太らせ、あの白く丸々としたカブとなります。食べる楽しみもさることながら、そんな一部始終を見るために足繁く畑に向かうのも野菜作りの楽しみです。

一方で、野菜を始めとする植物の生長を妨げるのは虫やウイルス、細菌です。

生育環境をうまく整えてやると、そういうものに打ち勝つて健全に育つ個体が多くなりますが、全ての種類の、全ての個体が健全に育つようにするのは至難の業。そこで農家の力を借りることになります。こんにち、店先に豊富な野菜が並んでいるのも、農家のおかげとも言えます。

農薬と聞くとどんなイメージが浮かぶでしょうか。「危険?」「毒?」日本

は農薬の使用量が他国に比べて多いというデータがありますが、雨が多い気候のため病害虫の発生が多く、使用した農薬の流亡も多い日本と、そうではない地域を、使用量だけで単純に比較することはできません。農薬は一回に使う量、希釈倍率、収穫までに使用できる回数などが薬品毎に厳格に決められていて、その範囲内であれば問題ないと言えます。人間が生きていくのに必要な水も、過剰に体内に取り込めば死に至ります。何事も適量を知ることが大切。もちろん、農薬は気分が悪いからと無農薬野菜を選ぶことも、消費者の権利として認められるべきですが、

あえて厳しい有機栽培の道に行くのも、適切な管理が必要な慣行栽培を選ぶのも自家菜園ならでは。さて、今年はどうな野菜を作りますでしょうか。



交流館もりもり

オープン十周年

平成十七年四月二十九日に産声をあげたつぎだて交流館もりもりは今年でちょうど満十歳を迎えます。野菜作りや加工食品・工芸品など、さまざまな技術を持つ地元の方とお客様として来館されるさまざまな方との交流の場として、たくさんの方に愛される施設となりました。

十年の間にはさまざまなことがありました。なかでも四年前の震災と原発事故は大きな出来事であり、その影響もとても大きなもので、体験に來る子供たちが減ったり、販売できる農産物の種類も減ったりするなど、未だに尾を引いていると言えます。

そんな逆風が吹く中ではありますが、交流館もりもりは今後も地域の方に愛され、訪れる方を笑顔にする施設を目指していきます。

また、来年はつぎだて花工房が創立二十周年を迎えます。今年、来年と続くアニバーサリー・イヤー。さまざまなイベントが目白押しとなりますのでお楽しみに!

「ノラ倶楽部」スタート

永らく「ノラ学校」として親しまれてきた畑作り体験が「ノラ倶楽部」として新たにスタートします。自分で作りたての野菜を作ってもよし、仲間と一緒に「自給自足」のバーベキュー用野菜や芋煮用野菜を作るのもよし。スーパーの野菜では体験できない「穫りたて」の野菜の味をぜひ味わってください!

体験料は年間八千円で約十三坪の畑を使うことができます。また農機具の無料レンタルも。月一回の「共同作業日」は他の参加者との交流や食事会もあります。希望によって作った野菜の放射能検査もできます。

春からの新しいチャレンジに「ノラ倶楽部」を!



季節の一品 葉山葵湯葉巻き



・葉山葵	50g
・生野菜 (レタス・人参等)	適量
・鶏ほぐし身	40g
・巻物用湯葉	1枚
・ポン酢 (つけだれ)	適量

〔作り方〕

- ① 葉山葵は1~2cmに切って水洗いし、70~80℃のお湯にくぐして引き上げ、塩を振ってもみ込み辛味を出す。
- ② 人参は千切りに、レタスなどは好みの大きさに切る。
- ③ 鶏ほぐし身は胸肉を茹でてほぐしておく。
- ④ ①~③を湯葉で巻き、皿に盛りつけて完成。
※湯葉をラisperーパーに変えて生春巻きにしても。

厨房のイチオシ!

今回は春の食材をふんだんに使ったお膳の紹介です。

先付の花山葵の一品はちょっと懐かしい味ではないでしょうか。県外産ではありますが、ぜひ味わって頂きたいです。小鉢は山菜のあえ物を、煮物は食べるとどこかホッとする味に仕上げました。揚物は鰯(まぐろ)の「ほほ肉」という珍しい部位を使い、外はサクッと、中は鰯のうまみ溢れる揚げ物となっています。

お食事の釜飯は具材が月替わりとなります。旬の具材が香る炊きたての味を、ぜひご賞味下さいませ。



オープンングセレモニーの様子
(平成17年4月29日撮影)

みはらし Cafe 営業中

交流館もりもりでは目の前にひろがる広大な景色を眺めながらのんびりした時間を楽しめる「みはらし Cafe」を営業しています。有機栽培豆を使った香り高いコーヒーと一緒にリラックスタイムを。
ホットコーヒー ¥300
ジャージーアイス各種 ¥300
毎日 10:00~16:00 営業
(休館日を除く)

日々の暮らしにハーブの香りを〜
ハーブ教室・今後の予定

講師:瀧田 勉先生(ハーブとスローライフの研究者)
参加費:1,800円(材料費・税込)

4月27日(月) 「ハーブガーデニング基礎編」3種類のハーブの寄せ植え作り
5月25日(月) 「ハーブガーデニング応用編」2種類のハーブの寄せ植え若玉
6月29日(月) 「ハーブクラフト」フレッシュラベンダークラフト

第6回 モノ作りびとフェア in つきだて花工房

5/30(土)・31(日)

雨天決行
駐車場：月館運動場（無料）

今年で6回目となるクラフト展「モノ作りびとフェア in つきだて花工房」。今回は全部で100組の応募があり、厳選の末、60組に決定。遠くはなんと、熊本県からも！木、土、布、革など、さまざまな素材が個性豊かに、魅力的な作品に変身。今年はどうな作品との出会いが待っているのでしょうか。

出展例：木工家具・インテリア、陶器、古布リフォーム、アクセサリー、山野草



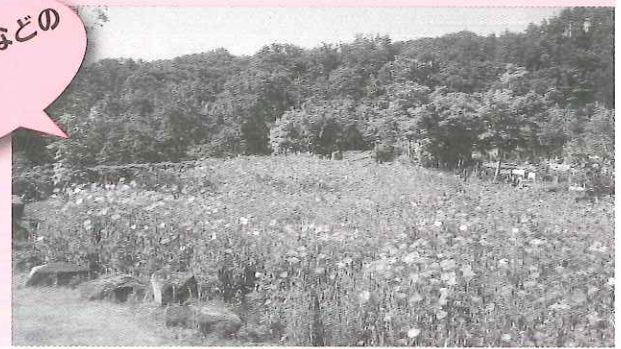
- ★竹ぽっくりプレゼント（2日間合計先着100名様）
- ★地元のうまいものコーナー

イベントスケジュール

5/30	10:00～15:00	バルーンアート体験
(土)	14:00～	南米音楽（フォルクローレ）La Paz ライブ
5/31	10:00～	女神太鼓演奏
(日)	14:00～	ジャズビッグバンド「ファジーネーブル」ライブ

出展者情報は こちらから ⇒ <http://monozukuribito.com/>

ポピーやバラなどの花も見頃！



発行 つきだて花工房 〒960-0903 福島県伊達市月館町下手渡守寺窪7 TEL 024-573-3888 E-Mail flower@hanakoboj.jp HP <http://r-hanakoboj.jp/>

花薫る郷 つきだて花工房 フォトコンテスト開催!

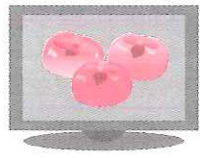
あなたの「撮っておき」応募してみませんか？花工房では園内で撮影した、花をテーマとした写真を募集します。優秀作品には豪華賞品を進呈！ふるってご応募下さい。

- 【テーマ】**
つきだて花工房園内で撮影した花の写真
- 【応募締め切り】**
平成27年6月7日（消印有効）
- 【応募条件】**
 - ・2L～A4程度のプリントで一人2点まで。組み写真は不可です。
 - ・応募者自身が撮影し、著作権を保有している作品に限ります。
 - ・デジタルデータでの応募はできません。
 - ・画像加工は色調や明暗の調整程度とします。
 - ・個人のHP、Blogを除き、未公開の作品とします。
- 【応募方法】**
つきだて花工房・交流館もりもりで配布する応募票を全ての作品の裏面に貼付して下さい。応募票はホームページからもダウンロードできます。
- 【発表】**
つきだて花工房ホームページに掲載、およびつきだて交流館もりもりに掲示。
- 【賞品】**
 - 優秀賞（一名） 花工房ペア宿泊券
 - 入賞（二名） 花工房お食事券五千円分

NHK 「被災地からの声」 伊達市から

二月十二日放送のNHK仙台局制作「被災地からの声」で月館の農家と交流館もりもりが紹介されました。ようやく試験的に出荷できるようになったあんぼ柿農家の苦勞。「花ワサビ」としては放射能は検出されないのに、根から検出されるために出荷できない農家の、出荷にむけての奮闘。

三月十一日の深夜には全国版でも放送され、四年目にしていますまだにハンデを抱える月館の農家の事情を、少しでも多くの方に知っていただく機会になったのかなと思えました。



お客様からのお便り

◆以前ももの里マラソン大会やあんぼ柿ツアーで、そして今回は復興支援いちご狩りツアーでお世話になりました。懐かしく又うれしく泊らせていただきました。福寿草の小さな花も見られて春が近づいている事を実感しました。（千葉県 K.S様）

◆あんぼ柿の生産再開はうれしい事です。私の娘もあんぼ柿が大好きですが震災以後、他県の品を購入する事が多くやっと地産地消という言葉も復興してきたという気持ちで県民の私もうれしいです。（郡山市 Y.N様）

木もれ日通信ではみなさまからのお便りを随時募集しております。郵便またはメールでも受け付けております。ぜひお寄せ下さいませ。



木もれ日53号プレゼント

リザーブフラワーアレンジ 3名様にプレゼント



ご希望の方は官製はがきに住所、氏名、電話番号、年齢と木もれ日通信53号で印象に残った記事および感想を記入の上、プレゼント応募券を貼ってつきだて花工房まで送り下さい。平成27年6月30日の消印まで有効です。なお、ご記入頂いた個人情報につきましてはつきだて花工房が責任を持って管理・保管し、当館のご案内をお送りするほか、サービス向上のために利用させて頂きます。

木もれ日通信52号プレゼント当選者
愛知県 羽根 翠 様
福島市 山田 薫 様
千葉県 米田 美津子 様

編集後記

電子書籍でコミック「いちえふ」を拝読。原発の収束作業の片鱗を垣間見る。一読をオススメします。（つきはな）

チュウリップ、桜、バラ、紫陽花これから花めぐりに忙しくなりそう。（幸）

春の苦味のある食材は冬に蓄えた体内のものを排出する効果が期待でき、春はダイエットに一番適しているとか。改めて、旬（しゅん）って意味があるのだと感服。（あか）

寒さに我慢していたパンジーやヒオウが暖かい日差しにのびのびと葉を広げ、花を咲かせ始めました。私も、背筋を伸ばして…（厚）

ムーンセラピー	月の明かりで疲れた心を癒したい。いますぐカレンダーにチェック!!	5/4 (月)	5/18 (月)
		6/3 (水)	6/16 (火)
		7/2 (木)	7/16 (木)

※休館日
5/19, 6/16, 7/14, 8/18 (全て火曜日)

木もれ日通信53号読者プレゼント応募券